

子どもは、母親の言葉を通して言葉を頭の中に蓄積させていきます。言葉をつかさどっているのは左の脳です。その他の音声は右の脳で聞いていることは前にも述べました。ですから赤ちゃんに声をかけるときは、それがちゃんと左の脳に響くように、赤ちゃんを見つめ、心をこめて話しかけることが大切です。

母親の「声」は、ただの「音」とは違うということを認識してください。そうすれば赤ちゃんはその声に応えてしゃべろうとし、脳の左の部分が発達していきます。

小さい時からテレビで育った子どもは、母親の声にあまり反応しないし、声をかけても反応が鈍く、自分だけの世界に閉じこもりがちといわれています。これはテレビの音は、人間がしゃべっていても、あくまでも機械の出す音だということに理由があると思います。機械の音ですから、声ではなくて単なる音と変わりありません。

その音は右の脳で処理されています。また、子どもがテレビに反応して応えても、相手からは何も追ってこないのです。したがって右の脳は発達しても、言葉脳である左側の発達は遅れています。それで言葉に対する反応が悪くなっているのです。

言葉を覚えるまで、つまり子どもが三歳になるまでは、テレビは避けて欲しいという理由はここにあります。脳の神経細胞がもっとも発達する大事な時期でもあるし、後から手遅れにならないよう、親として細心の注意を払う必要があります。

最近、幼児向け教育ビデオを利用するお母さんが多いようです。たとえばおやつを食べるときは、テレビ画面から出る「いただきます」という音声に合わせて、幼児も をそろえてしゃべります。挨拶のしかた、食事などのしつけから、教育まで、まさにビデオがお母さんの代行をしているのです。

しかし、幼児の視力が落ちたとか、失調をきたした例も少なくないようです。やはりしつけはお母さんが直接行うべきで、いくら便利だからといって、何もかもテレビに押しつけるようなことは望ましくありません。